

1 この科目の構成について

教 科	芸術科	科 目	日本画	単 位	1単位
対象コース	美術コース	対象クラス	1年8組		
使用教科書	美術Ⅰ（光村図書）				
使用副教材					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
日本画の授業では、膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習し、また日本画特有の空間表現を学ぶ。1年次は日本画の基礎として、デッサン力を養い、観察と細密描写を中心とした課題で実習する。静物描写の課題のなかで絵具、素材に対する表現技術を習得する。主に顔彩を使用し、来年度以降に向けて岩絵具の実習も盛り込みながら、日本画の基礎実習を目標とする。	
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
日本画は専門講師が指導し、画材等のセッティングが大掛かりなため、約1ヶ月の集中授業の形式で学習する。1年次では日本画実習の基本となる、水彩による写生を中心に実習し、併せて日本画材の基礎も学ぶ。画材は「顔彩」を主に使用し、岩絵具は背景のみ使用する。顔彩はこれまで使用してきた水彩絵具と扱い方が同じである。モチーフはスルメと野菜、果物などの自然物の組み合わせを予定。スルメは複雑な色作りと、徹底した細部の描写を学ぶのに適したモチーフである。彩色に入る前に墨描きを実習し、筆による線の抑揚で形の変化を表現する。	
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
(1) 学校 主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使う集中した制作を行う。 放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。	
(2) 家庭	

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
主に完成した作品によって評価する。 技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。 各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。	
評価における定期考査の割合	
0%	

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
(1) 関心・意欲・態度 課題に取り組む意欲、態度	
(2) 思考・判断 画面全体を構成する総合的判断力	
(3) 技能・表現 デッサン力、色彩感覚、描写力、表現力	
(4) 知識・理解 日本画画材の知識と理解	

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—	重視する評価の観点				
1	6 ～ 7	<p>「日本画Ⅰ」</p> <p>・静物デッサン</p> <p>・墨線描き</p> <p>・岩絵の具で地塗り 岩絵の具の基本的知識 膠の扱い方</p> <p>・顔彩で描く</p>	<p>「日本画Ⅰ・静物」24時間 F6サイズ 雲肌麻紙をパネルに水張りして描く 顔彩使用 地塗りは岩絵の具使用 モチーフはスルメと野菜や果物など、自然物との組み合わせ</p> <p>①B3スケッチブックにF6サイズの枠をとり、モチーフをデッサンする</p> <p>②雲肌麻紙を水張り</p> <p>③下絵をパネルにトレースダウン</p> <p>④墨で線描き 線による表現の実習 濃淡3段階の墨で線に強弱をつける</p> <p>⑤岩絵具で地塗り 白群青・白緑青・黄土・岩桃 コバルトバイオレット・若葉</p> <p>「白」を使い、岩絵具の粒子について知る 岩絵具を膠で溶く技法を学ぶ</p> <p>⑥顔彩で描く 綿密な観察 水彩絵具による細密描写</p> <p>道徳教育を実施</p>	●	●	●	●